

平成27年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション(第2回)

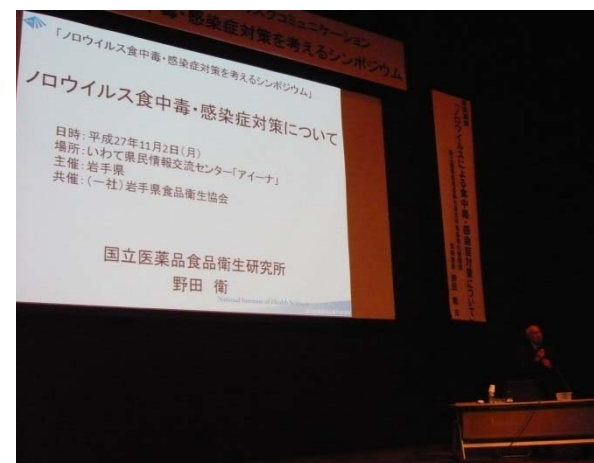
ノロウイルスによる食中毒・ 感染症対策を考えるシンポジウム

開催結果概要



平成27年度岩手県食の安全安心リスクコミュニケーション
ノロウイルスによる食中毒・
感染症対策を考えるシンポジウム

主催 岩手県
共催 (一社)岩手県食品衛生協会
後援 (公社)岩手県栄養士会／岩手県消費者団体連絡協議会／
(一社)岩手県調理師会／(一社)岩手県PTA連合会／
(一社)岩手県私立幼稚園連合会／(一社)岩手県獣医師会／
岩手県社会福祉協議会・保育協議会／
岩手県食育推進ネットワーク会議



27.11.2 県民くらしの安全課

1 開催概要

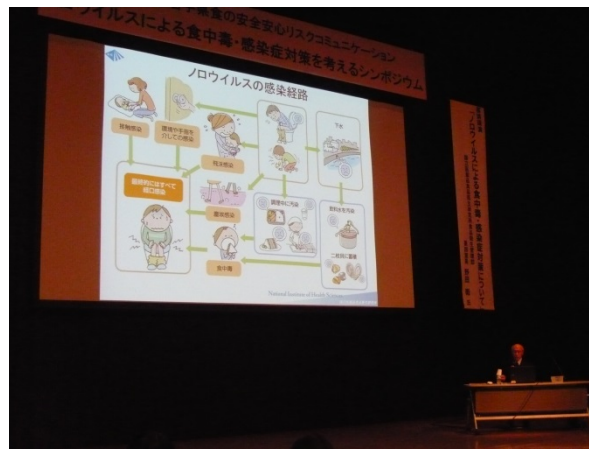
目的	<p>年のノロウイルスによる食中毒の発生件数は、既に昨年を上回っており、改めて食品の衛生管理及び施設の感染症対策の徹底が求められています。</p> <p>今回、地域住民、事業者、顧客等と日常的に接する地域の食品安全に関わる方々等を対象に、ノロウイルスによる健康被害について、基礎知識や具体的対策等を学んでいただき、食品衛生についての正しい知識の普及とともに、食中毒の発生、更には、施設における感染拡大を防止するため、シンポジウムを開催したものです。</p>
日時・会場	<p>平成27年11月2日(月) 13:30～16:10</p> <p>いわて県民情報交流センター「アイーナ」7階 アイーナホール</p>
参加者	<p>約300名</p>
内容	<ul style="list-style-type: none">◆講演Ⅰ「ノロウイルスによる食中毒・感染症対策について」 ＜講師＞ 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏◆講演Ⅱ「岩手県のノロウイルス食中毒発生状況等について」 ＜講師＞ 岩手県環境生活部県民くらしの安全課 遠藤 裕美◆意見交換・質疑 ＜コーディネーター＞ 岩手県環境生活部技術参事兼県民くらしの安全課総括課長 白岩 利恵子＜アドバイザー＞ 講演講師

2 講演 I

「ノロウイルスによる食中毒・感染症対策について」

講師 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏

内容 ノロウイルス感染症・食中毒発生状況、ノロウイルス食中毒・感染症の予防が困難な理由、予防法（手洗い、掃除・洗浄、用便の行動・心構え・対策）、下痢時・嘔吐時の対応、汚物処理等について、大変わかりやすく解説していただきました。



3 質疑・意見交換

参加者から事前に寄せられた質問等のほか、会場の質問・意見に対し、講師等に解説していただきました。

☆コーディネーター 岩手県環境生活部技術参事兼県民くらしの安全課総括課長 白岩 利恵子

☆アドバイザー 国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部第4室長 野田 衛 氏

岩手県環境生活部県民くらしの安全課主査 遠藤 裕美



コーディネーター



アドバイザー



質疑応答

◆質疑・意見交換

1 保育園内で、特に気をつけることをお教え下さい。

⇒ 保育園では、ノロウイルス感染者をゼロにすることは極めて困難。一番気をつけなければならないのは、二次感染を防ぐことで、そのためには、初期対応が重要である。ノロウイルスに対する理解について、職員は勿論のこと保護者の協力も必要である。下痢を起こした園児がいた場合には、他の園児と分けざるを得ないという対応も必要であることから、事前に保護者と情報共有することが大切である。

2 ノロウイルスや感染症の今年の流行しそうな時期やそれを阻止するために必要なものを教えて下さい。

また、罹患した場合、被害を最小限にいくとめる方法を教えて下さい。

⇒ 流行時期は予測できないが、例年より早いということはないと思われる。阻止するために必要なものは、手洗いをしっかりと行うこと。罹患した場合、下痢により脱水するので、十分に水分を補給することが必要である。被害を最小限にいくとめるためには、下痢、嘔吐物が感染源になるので、それらからの汚染を防止するために、処理を確実にを行い、ウイルスを不活化することが重要である。

◆質疑・意見交換

3 最近テレビでも話題になっている新型のノロウイルスについての予防と対処方法等、これまでのウイルスの違いを教えてください。

⇒ 新型というのはGII17変異株のことである。主に成人層に感染がみられ、集団感染症、食中毒の原因となっている。市販キットで陰性になりやすいので、検査結果をうのみにしないで、ノロウイルスを疑うことが必要である。

4 スーパーマーケット内で嘔吐があった場合、半径何メートル程度までの除菌、商品撤去が必要か教えてください。

⇒ どのような形で汚染があったか不明であるので一概に何メートルということはいえない。半径1.7メートルくらいは必要というデータもあるが汚染状況によるので一概には言えない。

5 保育所や福祉施設でノロウイルスなど食中毒が発生する主な要因を教えてください。

⇒ 県内で発生した過去10年間のノロウイルス食中毒事件は52件である。そのうち8件が保育所、福祉施設、幼稚園で発生している。保育所や福祉施設に限らず、調理従事者からの食品への二次汚染が原因と考えられる事例が多くなっている。

◆質疑・意見交換

6 ノロウイルス感染時、隔離の他に拡大を防ぐ有効な方策を教えてください。
また、予防の一般的なものの以外の方法、ノロウイルスに対する体の抵抗力を上げる方法を教えてください。

⇒ ノロウイルスの感染源は、便か嘔吐物である。トイレや室環境に汚染があったときに適切に対応するということが大切である。

予防の一般的なものの以外の方法については、個人レベルの予防では、残念ながらワクチンはないことから本日お話しした手洗いなどが中心となる。集団感染の予防も、本日のお話のとおりである。

ノロウイルスに対する体の抵抗力を上げる方法については、バランスの取れた栄養をしっかりと摂取することが必要である。

7 台ふきんやスポンジ等の消毒について、熱湯消毒や次亜塩素酸消毒があり、施設でその消毒の仕方が様々あると思います。一番有効な消毒の仕方を教えてください。

⇒ 消毒する対象によって変わってくるが、まず汚染した物を取り除き、その次に熱を加えられるものは、加熱する、最後に消毒剤を使う。消毒剤の場合は、塩素以外にアルコール製剤も使用することができる。

処理方法は、一つの方法に頼らず、複数組み合わせることが重要である。

◆質疑・意見交換

8 調理員がノロウイルスによる食中毒に感染した場合、何日くらい調理の仕事を休めば良いか教えてください。

⇒ 理想的は、便中のノロウイルスが陰性化するまでであるが、一般的には1週間から長い時で1カ月くらいかかるので非現実的な話となっている。やむを得ず復帰する場合は、ノロウイルスが排出されることを自覚し、より一層の手洗い等を行う、食品を取扱う業務に従事させないことなどが、現実的な対応と思う。症状が治まってから2、3日は、様子を見てほしい。

9 下痢・嘔吐をした時、空気感染などと言われるが、嘔吐物を処理する際、手袋、マスク、エプロン（専用）を身に着けることに時間がかかる。その間、嘔吐物には新聞などをかけておくだけでも良いのか教えてください。

⇒ 冬には嘔吐が起こりうることを想定し、速やかに 消毒などを実施できる体制を取っておくことが基本である。また、嘔吐した場所に立ち入らないよう、線引きすることも重要である。そのうえで準備ができるまでの間に嘔吐物が乾燥するリスクはそれほど高くはないと思われるが、新聞をかけておくことは有効であると思います。また、単に新聞をかけるだけではなく、例えば、塩素系漂白剤を浸した新聞をかける方がより効果が高くなると思います。

◆質疑・意見交換

10 これからの季節、ノロウイルスが多く発生しますが、どのような食べ物で多く発生するのか。また、予防するためには、どのようなことをすれば良いのか。ノロウイルスについての基本的なことを教えてください。

⇒ ノロウイルスによる食中毒の岩手県の状況は、調理従事者からの2次汚染を受けた食品を原因とする場合が非常に多くなっている。特定の食材、特定の食品に限定されるものではなく、その時に提供された食事が原因となっていることが多い。具体的に食品が特定された事例としては、巻き寿司や餅つき大会で提供されたお餅など、手を使う食材のほか、仕出し弁当など盛付工程のあるものなどの食品が多くなっている。

また、予防するためには、手洗いの管理が大切であると思います。

11 “ただの”胃腸炎と医療機関で言われ、下痢がひどいのに登園してくる子がいて対応に困っています。検査せず“感染症胃腸炎”と診断されている子、園としては、まだ登園が難しいと思うような症状でも主治医に登園してもよいと言われたと登園してしまう。どのように対応したら良いか教えてください。

⇒ このようなことがおこらないよう保護者へ事前説明等しておくことが前提となるが、やむを得ず登園してきた場合には、できるだけ他の子供と交わらないようにするか、対応する職員を限定する、使う器具を限定するなど、他の子供への感染拡大が起こらない環境を作る。そして、それを実行できるように保護者の理解を得られる体制にする。汚染があった時には、素早く対応するということで、集団感染は防げると思います。また、速やかに保健所に連絡して初期対応の指導を仰ぐという方法もあります。

◆質疑・意見交換

12 ノロウイルス発生時の初期対応（人が密集した所（多床室・食堂など）で吐いてしまった時）について教えてください。

（他の人の服についてしまった。寝具についてしまったなど）

ハイター（次亜塩素酸ナトリウム）を消毒に使う際の分かりやすい希釈濃度を教えてください。あらかじめ希釈水を作っておくのは良いのか、効果は長い期間もつのか教えてください。

⇒ 自分が嘔吐したのか、他の人が嘔吐したかによって対応も異なるが、自分が嘔吐した場合は、その施設の人にきちんと申告するが重要である。他の人が嘔吐した場合は、これまでお話した初期対応を確実に実施していただきたい。

希釈濃度については、市販の漂白剤とペットボトルを使用すると比較的簡単に調整できると思います。また、あらかじめ作っておくことについては、使用する時に希釈することが原則であるが、希釈後、遮光保存した場合半年間もつとのデータもあるので、あらかじめ作っておくことも可能である。しかし、濃度が下がっていくことも想定されるので、何らかチェック体制が求められる。

13 嘔吐物の処理についてですが、教科書など、捨てることも漂白することもできない物のよい処理方法を教えてください。

⇒ 教科書などの場合は、水などできれいに流すことになる。その他に教科書であればエタノール製剤などで拭くことも可能と思いますし、十分乾燥させることも不活化には有効である。また、熱を加えられるのであれば、温度の高いところに放置することも、しばらくするとウイルスは死滅するので方法としては考えられる。

◆質疑・意見交換

14 高齢者グループホームにて、食中毒によるノロウイルスと二次感染によるノロウイルスの違いの判断基準は何か教えて下さい。

⇒ 一般に食中毒は、食べた人が同時に感染するため、発症時期が概ね同じである。二次感染の場合には、人から人へ感染が拡大していくため、発症時期が異なることが大きな違いである。

15 嘔吐物がかかってしまったものの処理マニュアルなどがあったら教えて下さい。

疑わしい調理員、職員への医療機関受診等の指示マニュアルなどもあれば教えて下さい。

⇒ マニュアルではないが、県では「ノロウイルス食中毒予防リーフレット」を作成している。その中で患者のふん便や加熱処理する際の注意するポイントなどを掲載しているので活用いただきたい。また、厚生労働省でも薬剤の希釈などのリーフレットを作成し、ホームページで公開しているので活用いただきたい。

その他、ノロウイルス食中毒予防事業で県内の各保健所で講習会を実施している。その講習会で皆さんに情報提供していきたい。

◆質疑・意見交換

16 ノロウイルス遺伝子型が変化していることについて教えてください。
免疫を持たない集団への感染予防について教えてください。

⇒ ノロウイルスの遺伝子の変化に関しては、ここ10年間ではGII4に変異株がほぼ毎年出現しており、今年1月～3月にはGII17の変異株が多く検出されている。ノロウイルスの遺伝子変化はいつも起こっていることで、今年に限ったものではありません。

免疫を持たない集団への感染予防については、免疫を持っていない集団というのは、当然感染が起こりやすい集団ということになるので、手洗い等の一般的な方法になるが、それをより一層確実に実行することが必要である。

17 施設利用者が嘔吐した場合、明らかにノロウイルスでないと思われる症状では、職員の対応が通常の嘔吐の対応とノロウイルスによる嘔吐の対応に分かれしまいます。どのように対応すればよいか教えてください。

⇒ 最悪の事態を想定して対応するのが原則である。慢性的に嘔吐することが分かっている場合は、通常の嘔吐の対応法でも仕方がないとは思いますが、やはり嘔吐があった場合は、いつでも感染症であると想定して対応することが求められると思います。

◆質疑・意見交換

18 施設において、4人部屋の場合、そのうち1人の方が嘔吐した場合、他の3人は感染したものとして対応すべきか、速やかに部屋から出すなど感染していない対応をすれば良いのか教えて下さい。

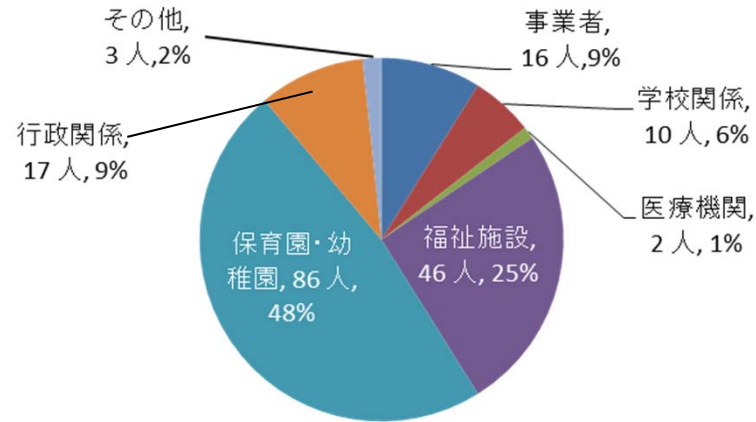
⇒ リスクの話になると思われるが、どのような形で嘔吐をしたのか、対応までの時間経過はどれくらいかなどもよるので一概に判断は難しい。嘔吐後直ちに職員が気づき迅速な対応を行えば、感染のリスクはそれほど高くはないと思う。ケースバイケースである。

19 保育園の保育室などは園児の荷物などもあり、完全封鎖は難しいため、1時間から2時間の封鎖としている。封鎖する場合の目安を教えてください。

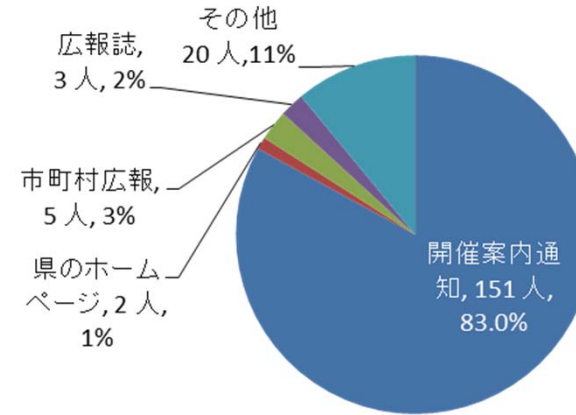
⇒ 嘔吐物が乾燥して空中に舞いあがった場合は、1時間では全然足りない。迅速な対応ができていれば封鎖しなくても問題ないケースもある。汚染があった時にいかに適切に対応したかによって違ってくる。適切に対応していれば、それほど長く封鎖する必要はないと思います。

アンケート結果

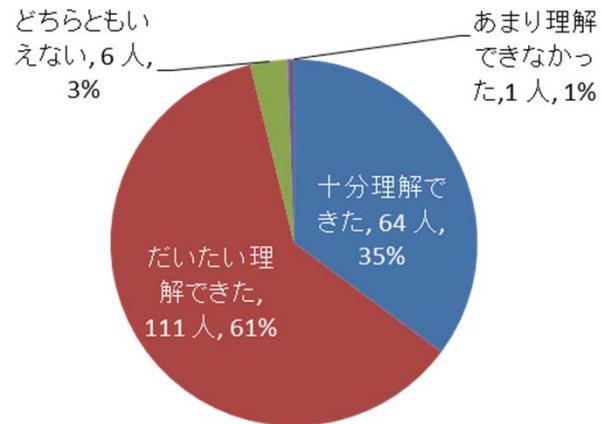
回答者の属性



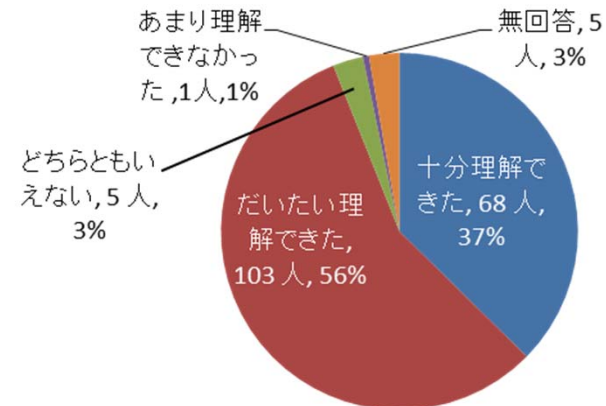
開催を知ったきっかけ



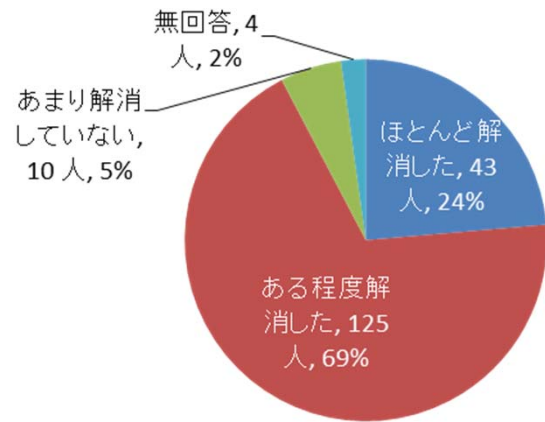
講演Ⅰの内容



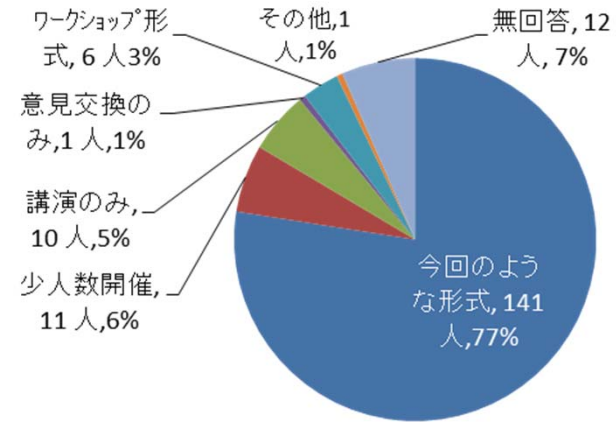
講演Ⅱの内容



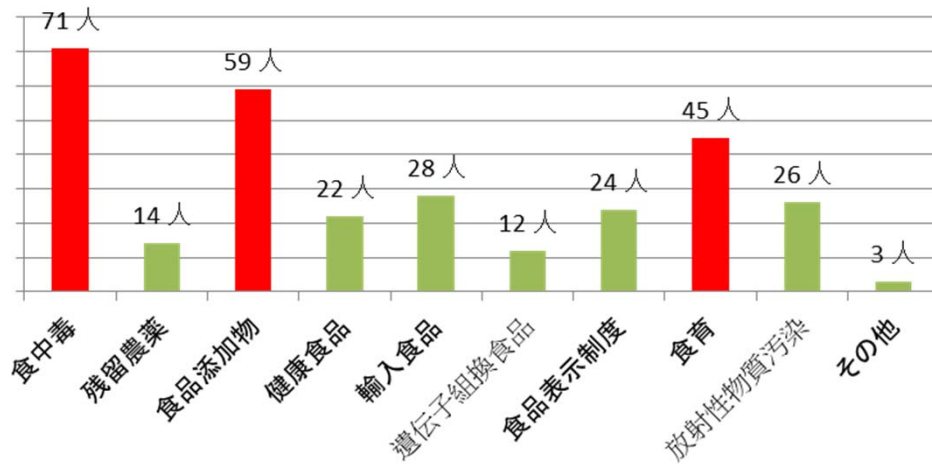
疑問の解消



今後の開催方法



今後取り上げてほしい話題



シンポジウム開催後の参加者からの主なご意見

- ◆手洗いの大切さを十分理解できました。
- ◆今後もこういう機会があったら参加してみようと思いました。
- ◆初めて参加しました。とても勉強になり、また参加したいと思いました。基本的なこと(次亜希釈濃度等)を資料でいただきたいと思いました。
- ◆嘔吐処理の実演や分かりやすい用語での説明があるとより理解しやすいと思います。
- ◆保育園なので、親も含めた勉強会や共通理解はとても大事と思いました。嘔吐物の方が拡大が大きいようですが、便についてももっと慎重に対応すべきと思いました。
- ◆処理の仕方など、実践に役立つものを取り入れて欲しい。現状は分かったものの、実践の知識が薄かった。
- ◆今まで思っていた知識と異なることを聞くことができたので、実践していきたい。また、一人の知識ではなく全体の共通意識が必要だということを改めて感じる事が出来た。
- ◆検査キットの結果が陰性でも菌を保有していることもあるということが分かりました。調理従事者の手洗いを徹底したいです。
- ◆事前質問は少ない。講演を聞けばわかることばかり、時間がもったいない。
- ◆専門的なところが難しかった。軽く最後にまとめてほしかった。(質疑応答で分かった。)
- ◆初期対応の重要性を再認識しました。完全に防ぐことは無理なので、いつ、感染しても対応できるよう日々意識していきたいと思います。